



素晴らしい海、山、水…。

伊豆ほど楽しいところはありません。

南伊豆町在住(東京から転入)

いしかわ けんいち

### 石川 憲一さん

1952年、東京都武蔵野市生まれ。1989年、南伊豆に移住し住居も自ら建設。農業生産法人(有)マザーアースクラブ代表。NPO法人伊豆未来塾、伊豆南地域有機農業推進協議会会長などを務めながら、伊豆地域の農業振興や移住定住推進事業に尽力している。



マザーアースクラブの耕作地は田畑4.5ha、果樹園1.3ha、竹林3.5haにおよぶ。現在は国内初と言われる無農薬・有機栽培のアボカド栽培にも挑戦中。

東京でジュエリーの製作をしていた石川憲一さんは、作品づくりに集中できる場所を求めて、平成元年に南伊豆へ移住してきた。当時の条件は半径500m以内に隣戸がないこと。そんな石川さんを地域の人は遠巻きに見ていたが、「子供に安全な野菜を食べさせたい」という思いで始めた畑仕事で状況は一変。農家から声をかけられ、自然に交流が生まれたという。やがて子供会や祭などを通じて集落に溶け込み、いつしか地域活性化のリーダー的立場に。今では移住の先駆者として移住促進事業にも携わっている。

「ジュエリーより農作業をしている方が圧倒的に長い」と語る石川さんは現在、農業生産法人(有)マザーアースクラブの代表を務め、環境に優しい循環型農法で有機野菜を生産販売している。地域発展に貢献する姿勢は多くの人から信頼されているが、本人はあくまで自然体。「移住には覚悟が必要ですが、しなやかな感性も大切。ダメならダメでいいじゃないですか」と石川さん。覚悟を決めながらも頑なにならず、状況を大らかに受け止める自由な発想力が日焼けした体躯にみえがっている。

「ジュエリーも農作業もクリエイティブ。自然に恵まれた伊豆は感性を豊かにしてくれるので、今後もやりたいことを続けます」と笑う石川さん。こんな人が近くにいれば、移住のハードルは格段に下がるだろう。